

かきおちば／霜が降るころになると、紅葉した柿の葉が落ちる。色合いもさまざまで、美しいものもあり、虫食い穴さえも目を楽しませてくれる。

らしく

自分らしく、
粹なくらし

特集

広島から「平和」を発信

アートを通して平和について考える場をつくる Project NOW!

広島の子生だからこそ感じる平和への思い ◆ s2 (Smile Smile)

絵本で「平和を願うヒロシマの心」を世界に届けたい! ◆ ひろしまと世界を結ぶこども文庫

Hm助成支援団体の紹介 / 人材バンク 名人達人 宝人 / ようこそ! 公民館へ・中区内公民館

らしくレポート・恋人の聖地 in 大和波止場 / らしくコラム・私にもできる「小さな平和運動」 / 情報の森 / プラザ通信



広島から「平和」を発信

広島市は平成27年に被爆70年の節目の年を迎えます。自分たちができる身近なことから平和について取り組んでいる団体を紹介します。



▲ Transformation of TARGETの企画「Action.1"Look"」(平成25年8月3日)

アートを通して 平和について考える場をつくる



Project NOW!

<http://www.p-now.com/>

一冊の本作りが、
多くの出会いをもたらす

あびえりか
安彦恵里香さんが代表となってアートを通して平和について考える場をつくることを目的に発足した団体が「Project NOW!」です。平成22年秋、当時の公益財団法人広島平和文化センター理事長ステイブ・リーバー氏が核そのものの使用を禁止する核兵器禁止条約について、よりたくさんの人々に伝えるための絵本を作ろうと発案。平成23年7月にイラストレーターやデザイナーと「一緒にアートブック『NOW!』」を制作しました。

制作は、核兵器の存在を頭から否定する前に、まずは核について



▲ Art Book「NOW!」

詳しく知ることから始まりました。読み手がどう考えるのか、想像力を持つことが大切なのでは、という視点からどんな人でも手に取れるアートブックをコンセプトにし、「核兵器と自分」をテーマに広島・長崎につながりがあるアーティストたちから作品を公募。85人もの参加がありました。作品のほかに、詩と、核について知るための核兵器の最新データを入れて完成。核兵器について深く考える機会が無かった人も本気で考え、多様な思いや意見を表現することが出来ました。「Project NOW!」は、この制作をきっかけに結成。広島市を中心にこの本の認知度を高め、さまざまなアートにより平和について考える取り組みを行っています。

さまざまなアート表現で
平和への意識を高めていく

平成23年に結成後、8月に「マチナカ、アートジャック『Switch on, Imagination』展」平成24年



▲ フラワーフェスティバルや、とうかささんなどのお祭りでフェイスペインティングのイベントも行っている。

次世代へ平和への思いの継承
次世代への被爆体験の継承は、被爆者の高齢化もあり、今後の課題となっています。記憶の風化を防ぐためにもしっかりと取り組んでいかなければなりません。

「原爆についてあえて口にする人が少なくなった昨今ですが、『みんなの心にはしっかりと灯がともっている。大丈夫だ』と希望を持ちました。また、平和への思いの継承も一朝一夕ではできません。どんな未来を作りたいのか、その為にどう継承して伝えていかなければならないのか、を十分に議論し行動していくことが必要です。

アートを通してのアプローチは、一見、遠回りに思えるかもしれま

せんが、逆にさまざまな人々が参加できる場となります。忘れてしまいがちな平和、大切なことの中身をしっかりと掘り下げて考える場、想像できる場をこれからも作り続けたい」と安彦さんは語ります。

自分たちの未来のため、忘れてはいけない記憶をどう伝え行動すべきか、人を、心を、未来を、彼ら自身も模索し続けている活動であると感じました。

開催しました。

平成26年は、前年行った「Transformation of TARGET」の企画の部で約600人が参加した「空を、見上げる」を単独で行う「みあげる2014」を開催。このイベントは1945年8月6日8時15分、多くの人が空を見上げた

だろう、あの日と同じ空の下で、

思いを馳せる時間を体験するものです。原爆

の投下目標となった相生橋上で、8時15分から10分間空を見上げ、思いをめぐらせながら参加者それぞれの10分間を過ごしました。

「私たちが伝えたいのは、人は考えるのが



▲ キラクの再生プロジェクト(平成24年)

好きで、良い問いや場があるだけで何かを生み出したくなるものだと感じています。その場を作るのが「Project NOW!」の柱です。」

らしく contents

Vol.40
柿落葉号
2014.11

ページ	特集
1	広島から“平和”を発信 Project NOW! S2 (Smile Smile) .. ひろしまと世界を結ぶこども文庫
5	支援団体の紹介 PocketPlan 特定非営利活動法人 フリースクール木のねっこ 八幡東ほうれんそうネット
7	人材バンク 名人 達人 宝人 吉野 紫小枝さん 森本 恭子さん
9	ようこそ! 公民館へ 中区内公民館
10	らしくくレポート 恋人の聖地in大和波止場 らしくくコラム 私にもできる「小さな平和運動」 広島女学院大学 国際教養学部 国際教養学科 篠原 収 教授
11	情報の森
15	プラザ通信



表紙写真／平和記念公園 原爆ドーム(晩秋)

絵本で“平和を願うヒロシマの心”を 世界に届けたい!

ひろしまと世界を結ぶこども文庫



▲ 代表の柴田幸子さん

最初、中国に贈ることから始めたのですが、絵本だけで原爆のことを分かってもらうことは難しかったそうです。そこで広島在住の留学生と交流を重ねて理解してもらい、その協力を得て、絵本に中国語や英語の訳文を添えて贈ることができるようになったと言います。

平成8年2月に設立し、広島から世界各国に絵本を贈り、世界の人々に平和の願いを発信し続けている団体が「ひろしまと世界を結ぶこども文庫」です。

代表を務める柴田幸子さんはもと、地域の子どもに読み聞かせをする親子読書活動や、移動図書館の手伝いをする文庫活動に関わってきました。平成7年、中国北京で開催された「第4回世界女性会議」と並行して開かれた「NGOフォーラム」に参加した際、現地で「核兵器の廃絶と平和の創造」をテーマに、2回のワークショップを開催。そのとき事前学習でまとめた冊子や、被爆直後の写真、ヒロシマの絵本の数々を資料として持ち込みました。そこで柴田さんは、会議に参加したアメリカの女子高校生が、絵本をみて原爆の惨状

**言葉で伝えることは難しいが
絵本が原爆の実相を伝える**

に驚いて、「こんなにも、ひどいものだとは思わなかった!」と言うのを聞き、世界の人たちは、まだまだ原爆の本当の恐ろしさを知らない、絵本がそれを伝えてくれる最高のものではないかと思ったそうです。

帰国後、柴田さんは会議に参加したメンバーと何度も話し合いを積み重ね、言葉だけで伝えるよりも分かりやすい子どもの絵本を通して、世界中の人々に原爆の実相を正確に伝えと共に、平和の大切さを次世代に伝えるために組織を立ち上げました。

**世界で読まれ継がれる
絵本が持つ訴える力**

会費、補助金、寄付金などで平和、環境問題に関した絵本を購入し、18年間で世界153カ国1100カ所、2160冊の絵本を贈っています。



▲ 贈り続けている絵本の数々

贈る絵本は『絵で読む広島原爆』『HIROSHIMA』『ひろしまのピカ』『わたしのヒロシマ MY HIROSHIMA』(英語版含む)など。贈り先は、広島在住の留学生の出身校や図書館。広島を訪れた高校生や大学生、また毎年国連が派遣する「軍縮フェローズ」のメンバーや国連図書館、広島で開催された「平和市長会議」(*)に参加したパートナーシップ、平和活動で海外に出掛ける市民団体などにも託しています。

「平和市長会議」(*)では、さまざまな活動を行っているNGO団体などとともに「ひろしまと世界を結ぶこども文庫」もブースを開き、絵本や資料を展示。会議参加の市長に、直接絵本を手渡すこともできたそうです。



▲ 「平和市長会議」(*)のブース展示の様子

「平成27年には、被爆70年を迎えます。現在会員は8人で、メンバーの高齢化に伴い、色々と作業も大変です。しかし、この活動の中で、思いもかけない方々との出会いや、多くの人々に協力していただけた事を深く感謝しています。そして絵本は民族、宗教、文化の違いを超えて、平和を願うヒロシマの心を伝えてくれる、最高のものであると信じています。また世界のどこかで、私たちが贈った本がいつまでも読まれ語り継がれていくことを願っています」と柴田さんは語ってくれました。

活動を継続する難しさを抱えながらも、草の根的に地道な活動が続ける皆さん。難しいことではなく、自分たちができることで平和を伝えたい、といった信念を感じました。

(※) 現・平和市長会議

広島の子だからこそ感じる平和への思い 同世代に伝えて、少しずつでも意識を変える取り組みを

S2 (Smile Smile)

<http://smile-smile-s2.jimdo.com/>



▲ 平成26年8月6日の「Peace Cafe 8.6」の様子

平成22年に、「平和を願い、考え愛する」ことを目的に広島市立大学国際学部の学生によって設立された学内サークルが「S2 (Smile Smile)」です。結成から5年目を迎えた現在は1年生と2年生の17人が在籍しています。

サークルが結成されたきっかけは、平成21年11月の学内の講義「ひろしま論」で、講師の「若い人の力が本当に必要なんだ」という言葉に感銘を受けたことからです。後日、改めて講師に会った際に「Yes キャンペーン(ヒロシマ・ナガサキ議定書の賛同署名を求める全国キャラバン)」や「平和市長会議」(*)について話を聞き、自分たち学生でもできる事があると思いサークルを作りました。

**学生でもできる、
学生だからできる取り組みを**



▲ 平和記念公園のガイドの様子

**同世代の人に伝えたい
平和や8月6日の意味を**

サークル名のS2 (Smile Smile) は、笑顔を増やしていくことで、平和な世界を創っていく、という考えから付けました。サークルは、5つのグループに分かれて活動しています。広島をテーマに活動する「国内チーム」。世界の紛争問題について調べ、研究する「紛争チーム」。開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に取り組む、日本発の社会貢献運動「TFIT(NPO法人「TABLE FOR TWO」)チーム」。発展途上国の子どもたちの支援を目的に何ができるのかを学び模索する「LUNCHIL (UNIVERSAL CHILDREN)」。会議のような重たい雰囲気ではなく、カフェのように気軽に雰囲気の中で、自分たちが考えている事について意見交換する「ワールドカフェ」です。

「中心となっている『国内チーム』の活動は、主に8月6日のイベントの準備です。参加者に平和記念公園内の案内(ガイド)ができるように慰霊碑などについて学んでいます。8月6日には毎年イベントを開いており、平成26年は、「Peace Cafe 8.6」を企画運営しました。公募によって集まった大学生を、平和記念公園内や広島平和記念資料館に案内した後、『ワールドカフェ』の方法を用いてディスカッションを行いました」と4代目部長を務める川田亜美さんは語ります。

また何故広島に原爆が落ちたのか、その背景を研究したり、同じ被爆地の長崎や、太平洋戦争時に本土最南端の特別攻撃隊の出撃地となった鹿児島県知覧町(現在は南九州市)を訪れて学習しています。

さらに今年も人文字プロジェクトの企画運営にも協力しました。人文字プロジェクトは、大学生という若い世代がこれからの平和を築いていくという思いのもと、平和への願いを込め、広島市の空に人文字を掲げる企画です。大学生が一つになり、平和について考え、平和への思いを発信しました。

「広島で育った人は小さい頃から平和について考える機会も多く身近に感じているけど、改めて8月6日の意味について考える人は少ないのではないかと、思います。逆に、



▲ メンバーの皆さん

広島出身以外の人には知らない事が多く、私たちの活動に興味を持ってくれる人も多くいます。もともと多くの同世代の人々が興味を持つことができるように活動していく事が大切。私たち大学生は微力だけど、少しずつでも活動することで、何かが変わるのでは、と考えています」。

広島市内にある、広島市立大学の学生の立場だからこそできるカラーで、今やりたい事、できる事にチャレンジしていきたい、というメンバーの皆さん。先輩方が築いてきた、「妥協することなく主体性を持って活動すること」を信念に、これからもサークル活動に取り組んでいくのでは、と感じました。

(※) 現・平和市長会議